
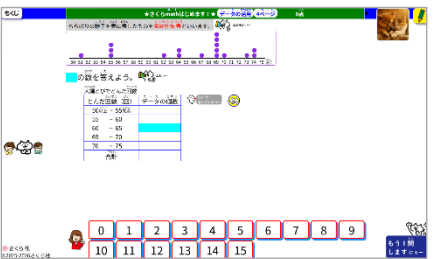


付けたい力：

- ・散らばりの様子を度数分布表に表す方法を理解する。
- ・度数分布表から、データの個数を正しく読み取ることができる。

学習活動	指導上の留意点
<p>1 めあてを確認する。 T：今日は、散らばりの様子を表にまとめる方法を学習します。画面上の図を、下の表にまとめます。</p> <p>2 データの個数を数える。</p>  <p>【展開例】 T：70回以上75回未満のデータは何個あるか、数えます。 T：データのどこからどこまで数えればよいですか。 C：70回から74回までです。 T：はい。データは何個ありますか。 C：3個です。</p> <p>3 他の階級のデータの個数を答える。</p>  <p>【展開例】 T：正解すると、他の欄の個数も表示されます。できあがった表を度数分布表と言います。 T：では、とんだ回数が55回以上60回未満のデータは何個ですか。 C：2個です。 T：データが0個の階級は何ですか。 C：60回以上65回未満です。</p> <p>4 個別学習をする。 T：各自で問題を解きましょう。</p> <p>5 本時のまとめ、ふりかえりをする。 T：今日の感想を發表しましょう。</p>	<p>1 めあてを板書する（または、大型モニタやプロジェクターで提示する）。 ・<さくら math>の「データの活用」4ページを大型モニタ等に提示する。 ・「よみましょう」をクリックする。</p> <p>2 問題はランダムで表示されるので、ここでは展開例を示している。 ・どの問題も、ある一つの階級についてデータの個数を数え、選択肢を選んで答える問題である。 ・児童の理解に応じて、「以上」と「未満」の意味を確認する。 ・5問くらい一緒に解いて、学習の進め方を理解したことを確認したら、次に進む。</p> <p>3 展開2と同様に進める。「合計」の個数についても問うようにする。</p> <p>4 自分の理解に応じて学習を進めるように指示する。 ・<さくら math>の問題を、自信がつくまで解く。 ・教科書の問題を解く（書き込み用の度数分布表を用意しておく）。 ・ドリルの問題を解く。 ・授業終了5分前を目安にタイマーを設定する。机間巡視をして、個別の支援をする。時間に余裕があれば、全員でもう一度<さくら math>の問題を解いて、達成感を共有する。</p> <p>5 児童の発言を肯定的に受け止める。次回はヒストグラムを学習することを予告する。</p>